食郷の歴史 シリーズ 11

薬師堂跡 本当は どこ?

東郷の民話2「身がわり薬師さん」の絵本は、部田地区にある東光寺の「紙捻(こより)薬師像」にまつわる伝承のお話しです。この「紙捻(こより)薬師像」は、東光寺に祀られる前は別の場所に祀られていたということで、その場所が「薬師堂跡」とか「元薬師」という呼称で村誌などに紹介されています。

東郷町教育委員会では、昭和55年度に町制施行10周年を記念して、元の場所に近い位置に「薬師堂跡」という石標を建てていますが、文献等により元の場所の位置が異なった地番で表記されていたり、誤字も見受けられますので、正しい地番や誤字等について調査・検証しました。

1「こより」の漢字表記について

その内容は以下のとおりです。

- (1) 村誌(296 頁)では、「<u>紙撚</u>」の文字が使用されています。 この漢字も「こより」と読みますが、民話絵本や「東郷の 地名考」など、他の文献では「<u>紙捻</u>」の文字が使用され ています。
- (2) 東光寺境内に建てられている石標には「<u>紙捻</u>」と記載されています。
- (3) 文化財物語(242 頁)に記載されている「<u>紙稔</u>」の「<u>稔</u>」の字は、「捻」の誤字と考えられます。



「東光寺」と「紙捻薬師」の石標

(4)「紙縒」も「こより」と読みますが、「縒」の字は糸をねじったものを意味しているので、全く別のものといえます。 これらの状況から東光寺の"こより薬師"の漢字表記は、「紙捻」が相当であると解釈されます。

2 「薬師堂跡(元薬師)」の場所について

(1) 文化財物語(242 頁)の「字西前<u>599番地</u>」 の表記は、部田地区内の旧来からの地番 が4000番台から6000番台で付番されて いることから疑義があります。

文章中の「県道瀬戸大府線から東へ100 mぐらい入ったところ…」の該当する場所に東光寺の旧所有地があり、その土地の地番「5997番地」の誤記と考えられます。

(2) 尾張東郷町の地名考(546 頁)の「字西前 159」の地番は、薬師堂のあった場所では なく、「薬師堂跡」の石標を設置してある土 地の地番です。

土地改良事業により設けられた水路敷の 土地内に土地改良工区の承諾を得て建て られました。





「薬師堂跡」石標

(3) 尾張東郷町の地名考(546 頁)の「春木4997番地」の表記は、土地改良事業前の地番であり、当該地は、現在の「字起内」の辺りであり、部田集落からは、かなり南に離れています。

周囲に何もない低地であることから伝承されているような堂の火災は、起こりにくく不自然であることから「5997番地」の誤記と考えられます。

(4) 昭和55年実施の東郷町文化財基礎調査資料を見ると、明治36年生まれの野々山和次郎氏が以下のとおり説明しています。

「東西に細長いぼた山形の塚があった。塚の広さは1畝(30坪=100 ㎡)くらい。高さは7尺(2.3m)くらい。昭和40年頃に整地したため塚は現在ない。 薬師堂の火災による紙捻薬師像の伝説は、おりからの南風にあおられ火災から逃れるべく天空を舞い、現春日神社忠魂碑の位置にあった大松の枝に乗



民話絵本表紙



こより薬師像

参考文献

り助かったというもので、その大松は大正元年に倒れたといわれる。」

- ① 村誌 296 頁(昭和 32 年 12 月刊)
- ② 文化財物語 242 頁(昭和 57 年 3 月刊)
- ③ 尾張 東郷町の地名考546頁(平成元年11月刊)
- ④ もっこく5号 98 頁(昭和54年3月刊)
- ⑤ もっこく9号30頁(昭和58年3月刊)
- ⑥ 町の文化財基礎調査票(昭和55年9月19日)
- ⑦ 絵本 東郷の民話 2身がわり薬師さん(平成 14年12月刊)

既刊の文献に対する検証と訂正・補足

①「村誌 296 頁(昭和 32 年 12 月刊)」

「元楽師堂跡」⇒「元薬師」の誤記。 「紙撚薬師」⇒「紙捻」の誤記。

② 「文化財物語 242 頁(昭和 57 年 3 月刊)」

「紙稔薬師」⇒「紙捻」の誤記。

「字西前599番地」⇒「字西前の地区内」はもちろん、部田地区内で500番台の地番はありえない。部田地区の地番は、4000番台から6000番台となっている。文章中の「県道瀬戸大府線から東へ100mぐらい入ったところ」の該当する地に東光寺の旧所有地があり、その土地の地番「5997番地」(面積723 ㎡)の誤記と考えられる。

③ 「尾張 東郷町の地名考546頁(平成元年11月刊)」

「字西前<u>159</u>」⇒この地番は、「薬師堂跡」の石標を設置してある土地の地番。土地改良事業により設けられた水路 敷の土地であり、薬師堂のあった旧地番「5997番地」の範囲に含まれるかあるいは、隣接地と考えられる。

「春木<u>4997番地</u>」にあった」⇒この地番の場所は、現在の「字起内」の位置に該当し、部田集落からは、かなり南に離れている。周囲に何もない低地であり、伝承されているような堂の火災は起こりにくく不自然であることから「5997番地」の誤記と考えられる。